

サガラメ・カジメ増養殖効率化研究

(予算区分 県単 研究期間 平成21～23年度)

担当：利用普及部深層水研究室

【研究の背景とねらい】

- ・ 本県沿岸には食用のトロロメとして知られるサガラメや、大規模な海中林を構成するカジメが生育していましたが、これらの藻場・海中林がなくなってしまう「磯焼け」が各地で発生しています。
- ・ 種苗培養技術の確立と種苗移植等の復元試験により、一部の海域ではカジメ群落拡大の可能性が高まっていますが、棲息水深が浅いサガラメには、大型コンクリートブロック等による移植が適さないため、簡易的な移植方法を開発する必要があります。
- ・ 簡易的な移植方法が開発されれば、藻場復元事業のコストが削減され、より多くの海域での事業実施が可能となります。
- ・ サガラメフリー配偶体を利用して種系を作成し、藻食性魚類による食害の少ない冬季の短期間に海面養殖を行うことで、食用可能なサイズの藻体が得られることが明らかとなりました。
- ・ 本研究ではサガラメ・カジメの簡易移植法の開発と種苗生産の簡略化によりサガラメ・カジメ増養殖事業の効率化を図ることを目的としています。



【期待される効果】

- ・ サガラメ・カジメ幼体の直接海域散布や、ダイバーが実施可能な簡易的な移植法の開発によって、より多くの磯焼け海域で藻場復元事業が展開できるようになります。
- ・ サガラメは食用としての需要も多いため、簡易種苗生産システムの開発によって種苗供給体制が確立され、サガラメの海面養殖の実用化が図れます。

【年次計画】

- ・ サガラメ・カジメの簡易移植方法の開発(平成21～23年度)

水槽実験(平成21～22年度)	幼体の大量培養と散布方法の検討
	簡易移植基質の検討
	種苗ロープの生産効率化
磯焼け海域での実証試験(平成21～23年度)	

- ・ サガラメ簡易種苗生産システムの開発(平成21～23年度)

(作成 平成21年4月)